



環境活動報告

Environmental Performance Report

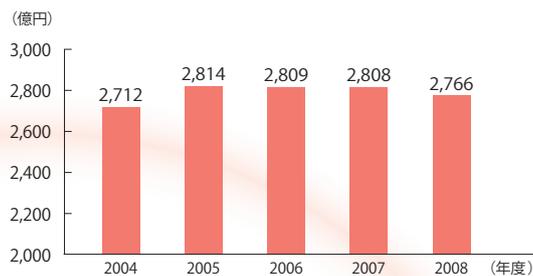
2 0 0 9



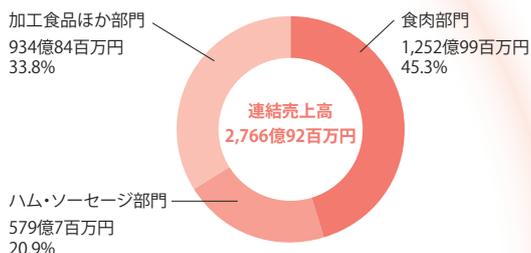
会社概要

社名	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers,Ltd.	
所在地	〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー	
TEL	03-6386-1800 (代表)	
代表者	代表取締役社長 松井 鉄也	
事業内容	ハム・ソーセージ、食肉および 加工食品の製造・販売	
設立	1948年7月9日	
資本金	33億63百万円	
決算期	3月31日	
従業員数	1,156名 (2009年3月31日現在)	
売上高 (連結)	2,766億円 (2009年3月期)	
事業所	支社・支店など	58ヶ所
	工場	4ヶ所
	物流センター	11ヶ所
	研究機関	2ヶ所
グループ会社	45社	
	連結子会社	39社
	持分法適用関連会社	6社

売上高推移 (連結)



事業別売上構成比



プリマハムグループ

国内グループ会社

種豚・肉豚生産肥育 (1社)
・太平洋フリーディング (株)

食肉の処理加工 (6社)
・(株)かみふらの工房
・西日本ベストパッカー (株)
・茨城ベストパッカー (株)
・北日本ベストパッカー (株)
・山口ベストパッカー (株)
・札幌通商 (株)

ハム・ソーセージ、フレッシュミートなどの販売 (7社)
・北海道ミート販売 (株)
・関東プリマミート販売 (株)
・東海プリマミート販売 (株)
・関西プリマミート販売 (株)
・プリマハム北海道販売 (株)
・宇和島プリマ販売 (株)
・佐賀プリマ販売 (株)

フレッシュミート、弁当・惣菜などの小売 (6社)
・プリマハム関東販売 (株)
・プリマハム近畿販売 (株)
・プリマサンショップ (株)
・(株)エッセンハウス
・東栄フーズ (株)
・相栄フーズ (株)

ハム・ソーセージ、加工食品の製造・販売 (8社)
・プリマ食品 (株)
・秋田プリマ食品 (株)
・プライムフーズ (株)
・北陸プライム (株)
・四国フーズ (株)
・プリマルーケ (株)
・(株)ドルチャ
・イワテ・プリミート (株)

惣菜・調理パン・デザートなどの製造・販売 (3社)
・プライムデリカ (株)
・熊本プリマ (株)
・(株)プライムベーカー

その他事業 (9社)
・プリマ環境サービス (株)
・(株)つくば食品評価センター
・プリマ・マネジメント・サービス (株)
・プリマシステム開発 (株)
・プライムテック (株)
・プリマロジスティックス (株)
・プリマフレッシュサプライ (株)
・(株)帯広公害防止技術センター
・(株)新栄流通サービス

プリマハム株式会社

海外グループ会社

ハム・ソーセージ、加工食品の製造・販売 (3社)
・山東美好食品有限公司 (中国)
・青島普徳食品有限公司 (中国)
・Thai Best Packers Co.,Ltd. (タイ)

豚遺伝子研究事業 (1社)
・Swine Genetics International,Ltd. (アメリカ)

惣菜・調理パン・デザートなどの製造・販売 (1社)
・Prime Deli Corporation (アメリカ)

おいしさ、ふれあい。

プリマハムはお客さまとの絆を大切に、
食の「おいしさ」、人との「ふれあい」を通じて
楽しく豊かな食の未来を創造していきます。

編集にあたって

本環境活動報告は、プリマハムグループにおける
ISO14001 認証取得箇所での環境保全活動への取
組みをまとめた報告書です。

作成にあたっては、全社の取り組み状況に加え、各
活動拠点での取り組みが具体的にお伝えできるよう、
構成を工夫しました。

特に、特徴的な取り組みである「乾燥機導入による汚
泥の肥料化」「食品廃棄物のリサイクル化」「廃食用油
のBDF化」を特集として取り上げました。

報告期間

2008年度(2008年4月～2009年3月)を中心としてい
ますが、2008年度以前・以降の活動についても一部
掲載しています。

対象範囲

ISO14001認証取得箇所(P.5参照)を対象としています。
そのほか、範囲を限定する場合は注記しています。

発行時期

2009年10月発行

次回発行予定時期

2010年10月発行予定

参照ガイドライン

「環境報告ガイドライン(2007年版)」(環境省)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン
Ver.3.0」(Global Reporting Initiative)

お問い合わせ先

プリマハム株式会社 環境管理室
〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2
品川シーサイドウエストタワー
TEL 03-6386-1832
FAX 03-5462-1702
<http://www.primaham.co.jp/>

Contents

会社概要	2
編集にあたって	3
目次	3
プリマハムの事業展開	4
ISO14001 認証取得サイトマップ	5

特集

汚泥から肥料をつくる(茨城サイト)	6
食品廃棄物を減らす、いかず(三重サイト)	8
廃食用油でバイオディーゼル燃料をつくる(熊本サイト)	10

全社環境情報

環境マネジメント	12
環境とのかかわり	13
2008年度環境目的・目標	14
目標達成状況	15

サイト別 環境データ

北海道サイト	18
茨城サイト	19
三重サイト	20
鹿児島サイト	21
プリマ食品サイト	22
秋田サイト	23
プライムフーズサイト	24
北陸プライムサイト	25
四国サイト	26
熊本サイト	27
プリマルーケサイト	28
太平洋牧場サイト	29
品川本社サイト	30
近畿サイト	31

プリマハムの事業展開

プリマハムは、安心で安全な商品をお届けすることをモットーに全国に事業領域を拡大し、お客さまの「おいしい」食シーンの演出のために、食にかかわるあらゆる分野に挑戦しています。また、企業の社会的責任として、食文化の発展、研究・技術開発、環境問題に取り組んでいます。

食肉事業

種豚・肉豚生産肥育

太平洋フリーディング(株)では、生産情報公表豚肉(JAS)認定農場として、安心・安全で高品質の肉豚を生産肥育しています。国内で5つの牧場を展開し、またアメリカのS.G.I.社と提携して遺伝子供給・種豚育種から肉豚販売まで一貫管理しています。

食肉の調達

食肉の調達を一元管理し、原材料のトレーサビリティ管理を確立しています。牛・豚・鶏肉は国内だけでなく海外からも調達しています。

〈おもな仕入れ先〉

- 牛… オーストラリア、アメリカ
- 豚… デンマーク、アメリカ、カナダ、メキシコ
- 鶏… ブラジル



食肉の処理加工

フレッシュミートの加工・カット、味付肉や衣付肉などの加工生産を行っています。

フレッシュミートなどの卸売

食肉ならびに加工生肉の販売をしています。

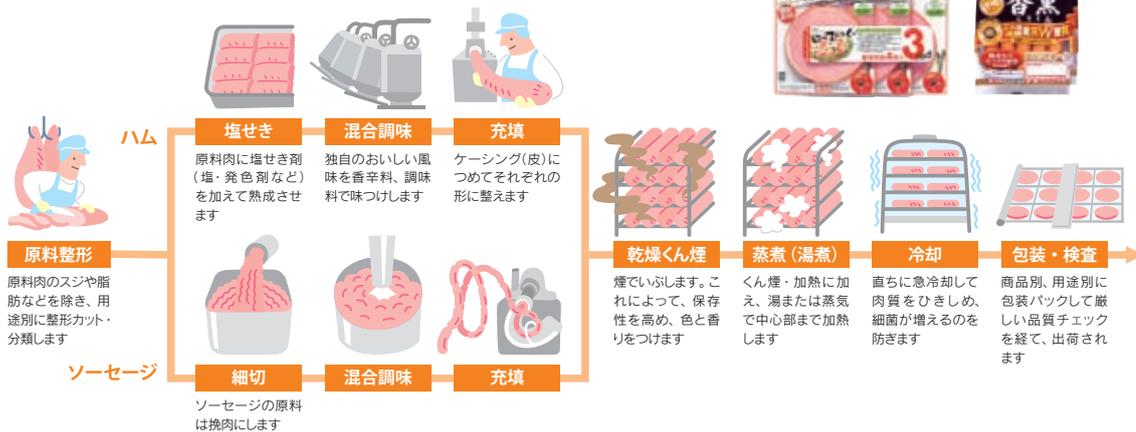
ハム・ソーセージ／加工食品の製造・販売

グループ会社を含む国内12工場と海外3工場では、地域特性をいかし、幅広いニーズに対応した商品を製造しています。

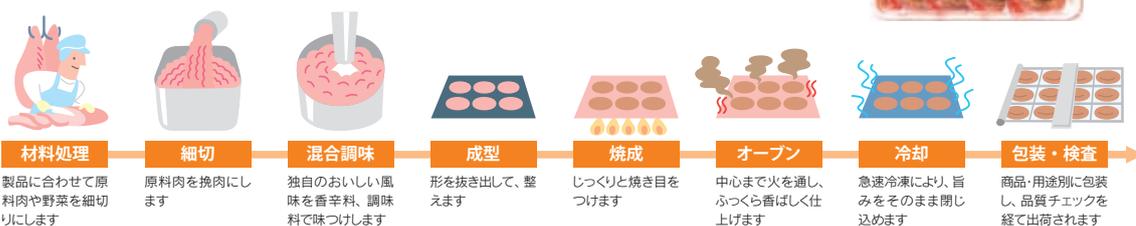
ハム・ソーセージ：ロースハム、ボンレスハム、ベーコン、生ハム、ウインナーソーセージなど
加工食品：ハンバーグ、からあげ、チキンナゲット、ミートボール、焼き鳥など



ハム・ソーセージの製造工程



加工食品(ハンバーグ)の製造工程



加工食品事業

フード・デューリー事業

外食・中食を中心とした加工品・惣菜・調理パン・デザートなどの製造・販売

ファミリーレストラン等の外食産業やコンビニエンスストアを中心にメニュー提案、加工品・惣菜・調理パン・デザートなどの製造・販売を行っています。

弁当・惣菜などの小売

百貨店、スーパー、ショッピングセンターなどに肉の専門店、惣菜・弁当などの売場を展開しています。



その他事業

研究・技術開発

「未来に貢献する研究開発」を目指し、食品の安全性確保への取り組みはもちろん、健康食品の開発や環境保全へ貢献する開発など幅広い視点で研究・開発に取り組んでいます。

情報システム

プリマシステム開発は、プリマハムの情報システム部門が独立したソフトウェア会社です。情報のセキュリティを確保・維持するため「ISO/IEC27001：2005」の認証を取得しています。



総合人財サービス

プリマ・マネジメント・サービス(株)では、人事、教育といったマネジメント部門のノウハウをいかし、企業の管理・運用を総合的にサポートしています。

ロジスティックス

プリマハムの物流部門を担い、お客さまに安心・安全な商品をお届けする大切な役割を果たしています。

環境サービス

プリマハム製造工場でのサニテーションを担い、衛生管理の維持向上に貢献しています。また排水処理施設・貯水槽の運用管理、およびその工場周辺の環境美化に取り組んでいます。

ISO14001 認証取得サイトマップ

プリマハムは、ハム・ソーセージ/加工食品の製造工場を中心に全14サイトでISO14001の認証を取得しています。

-  食肉事業
-  加工食品事業
-  フード・デューリー事業
-  その他事業



排水処理後の有機汚泥を「プリマ菌体肥料」に再生!

茨城サイトの浄化排水は、排水基準の厳しい霞ヶ浦流域の花室川に放流されています。その排水処理で発生する汚泥を有機肥料として商品化し、「プリマ菌体肥料」として2008年11月より販売を始めました。プリマハムで最も多い廃棄物である汚泥の減量化につながっています。



花室川の水質を守る排水処理

茨城サイトはハム・ソーセージの生産工場を中心に、研究開発部門、物流センターなど8事業所で構成される、プリマハムの主力生産拠点です。ここで発生する汚泥の年間排出量は1,507トン(2007年度)。2007年度には産業廃棄物処理業者に委託して堆肥化※1することにより、リサイクル率は100%に達しました。しかし、汚泥の排出量はほかの産業廃棄物(動植物性残さ、廃プラスチック)と比べて多く、減量化が進んでいないことが課題でした。

茨城サイトから出るすべての汚泥は、排水処理の過程で生じます。排水には、原材料由来の有機物などが多く含まれており、これを微生物が餌として分解することにより排水は浄化されます。排水中で繁殖した微生物を沈殿させ、取り除いたものが汚泥の正体です。

処理された排水は花室川に放流しており、さらに霞ヶ浦へと流れていきます。地域環境を守るためにも、排水処理に伴う汚泥の発生は避けられませんが、汚泥の処理にかかる多大なコストの削減も茨城サイトの課題でした。

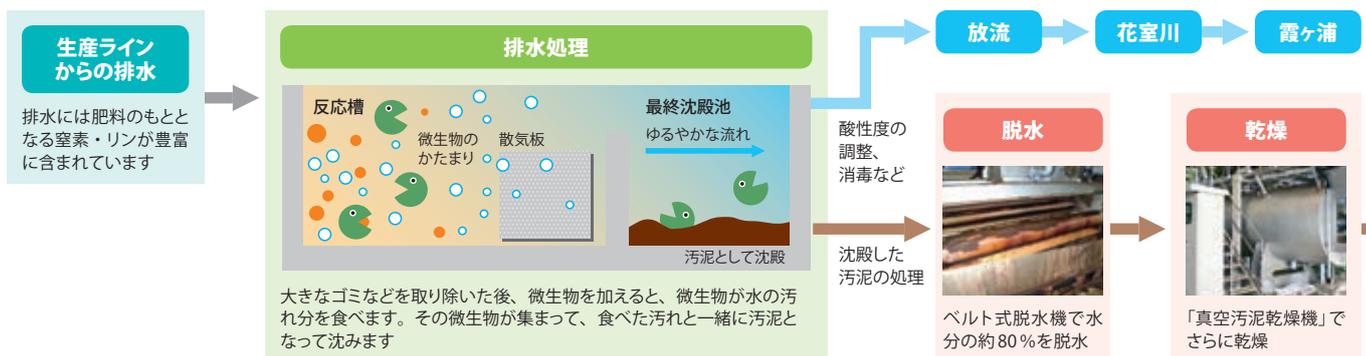
栄養分豊富な汚泥を商品化

汚泥の排出量削減、処理コスト削減の2つの課題への対策として、茨城サイトでは汚泥を乾燥・減量化し、「普通肥料」※2化して売却することを目的に、2006年3月より準備を始めました。

食品工場の汚泥は微生物のかたまりで、植物が育つために必要な窒素・リンが豊富に含まれ、有害な物質は含まれていません。そこで、汚泥を乾燥させ、成分品質や安全性を保証した普通肥料として売却できれば、汚泥処理費用の削減や収益につながる事が予想されました。

茨城サイトでは、生産設備の導入・管理を行う生産技術課、肥料成分の分析を行う基礎研究所、排水処理施設を運用するプリマ環境サービス(株)など、さまざまな機能を持つ部署がそれぞれの強みを持ち寄って、汚泥の肥料化の検討を進めました。また、プリマハムグループ14サイトの環境経営を支える環境管理室も、そのネットワークをいかし、協力事業者の選定などの面からサポートしました。その結果、2008年11月より汚泥乾燥機※3を稼働させ、肥料化を開始しています。普通肥料「プリマ菌体肥料」として、行政への登録も行い、汚泥

茨城サイトの排水処理と汚泥のリサイクル





を有機肥料の原料として全量売却することができるようになりました。

- ※1、2 普通肥料と堆肥の違い：肥料は、肥料取締法により、米ぬかや堆肥など組成が簡単で肥料分が少なく、公定規格を設定できない特殊肥料とそれ以外の普通肥料に分類される。普通肥料である「プリマ菌体肥料」は、成分基準や有害成分含有量など、品質や安全性に関する公定規格をクリアしており、行政への登録も行っている。
- ※3 汚泥乾燥機（真空汚泥乾燥機）：汚泥を乾燥させ、肥料化する設備。真空状態をつくることで水の沸点を低下させ、低温で水分を蒸発させることができる省エネルギー型設備で、臭気の発生も抑えることができる。6,000kg/日の汚泥を処理し、平均700kg/日の肥料を生産することが可能。

汚泥の商品化に伴うコスト削減と環境保全効果

汚泥の普通肥料化で、若干のランニングコストはかかりますが、これまで産業廃棄物処理業者に委託していたコストが不要となり、汚泥処理コストはこれまでの1/3以下になりました。さらに今後は、年間約100万円程度の売却益を、普通肥料の収益として得ることができるようになります。

環境保全効果としては、真空乾燥により、汚泥排出重量が従来の1/10程度に減量化されることに加え、その輸送に伴うCO₂排出を含めた環境負荷が低減されることとなります。

技術やノウハウを持ち寄って普通肥料化を実現

設備の選定・導入

「真空汚泥乾燥機」を新たに導入し、「プリマ菌体肥料」の生産ラインを整備しました。設備の導入にあたり、肥料の品質やエネルギー効率、臭気対策も考慮。多大な廃棄物処理コストの削減に加え、収益もあがり、茨城サイトにとって大きな収穫となりました。

プリマハム（株）茨城工場 生産技術課
（現・三重工場 生産技術課）

谷井 良之



排水処理から汚泥乾燥までの運用管理

排水処理から肥料化までの日常管理を行っています。微生物は生き物なので、排水処理中の水の状態には気をつけていますが、汚泥が乾燥・減量化されて管理がしやすくなりました。品質の安定した肥料をつくるため、今後も真空汚泥乾燥機の適切な運転管理、メンテナンスに取り組んでいきます。

プリマ環境サービス（株）茨城事業所

田村 誠弘



成分分析・植害試験・肥料登録

肥料の成分分析および登録に必要な植害試験^{※4}を担当した当研究所では、以前から汚泥の普通肥料化の技術的検討を行っており、茨城県への登録にあたっては、必要な試験をすべて自ら行いました。実用化後も自主的に成分分析を行い、品質保持を確認しています。

※4 植害試験：植物の害に関する栽培試験。一定条件下で植物を育成する。

プリマハム（株）基礎研究所

岡田 幸男・山中 洋之



肥料売却先の選定

グループネットワークをいかし、「プリマ菌体肥料」の売却先選定に協力しました。排水汚泥のリサイクルには、肥料や堆肥を購入してくれる事業者が不可欠ですが、「プリマ菌体肥料」は肥料の原料として事業者に購入され、配合された後、商品として市場に流通しています。

プリマハム（株）環境管理室

稲葉 有邦



徹底した工程管理で原料廃棄肉を半減 発生した食品廃棄物は 優良堆肥や家畜飼料にリサイクル

ハム・ソーセージ工場の三重サイトでは、生産工程を徹底的にチェックし、ミスを減らすことで、製品とならずに廃棄される原料肉の発生を削減。それでも出てしまった食品廃棄物は近隣のリサイクル事業者と協力して飼料や堆肥などにリサイクルしています。



三重サイトの食品廃棄物対策

食品リサイクルの積極的な促進

三重サイトで食品リサイクル法の対象となる食品廃棄物には、工程内で発生する「原料廃棄肉」と、包装後に出荷されなかった製品および販売されず戻ってきた包装後の「製品廃棄物」の2種類があります。

三重サイトでは、発生する食品廃棄物を、2002年までは自家焼却していました。しかし、食品リサイクル法改正や2004年のISO14001認証取得を契機として、現在は食品廃棄物発生量の削減とそのリサイクルを積極的に進めています。

リサイクル委託事業者を自ら定期監査

三重サイトから発生する食品廃棄物のリサイクルは、処理段階の環境負荷やリサイクル製品に十分配慮している2社のリサイクル事業者に委託しています。

リサイクル事業者に対しては、年1回、定期的に監査を行っています。具体的には、

- 廃棄物の保管状況
- 施設の稼働能力や稼働状況
- 処理の適切性、法規制順守状況

などについて、直接リサイクル事業者を訪問し、担当者に聞き取り調査をしたり、処理施設の状況を調査したりすることで、適切かつ確実な処理が行われているかを確認しています。



定期監査風景

わずか半年で廃棄肉発生量を半減

管理の徹底でミスを削減

ハム・ソーセージの製造工程には、原料肉から不要な部位を取り除く「整形」、味つけをする「塩せき」、味つけをした肉をケーシングに詰める「充填」などの作業があります。これらの作業ではさまざまな原因で原料肉を落下させてしまうことがありました。こうして落下した原料肉は不良品として廃棄されます。

2008年度は落下の多い工程を洗い出し、その原因分析や改善策について、ISO14001の一環である月1回のサイト環境委員会を利用して議論を重ねました。担当従業員へのミス防止の意識づけなど、落下防止対策を確実な効果が確認できるまで徹底して実施した結果、わずか半年で廃棄肉の発生量を約半分に削減することができました。

出てしまった食品廃棄物は大切にリサイクル

原料廃棄肉や製品廃棄物は、食品としては適当ではありませんが、栄養価やカロリー面では非常に優良な資源です。三重サイトでは、その食品としての特性をできるだけいかしたリサイクルを目指し、堆肥化や飼料化を行っています。

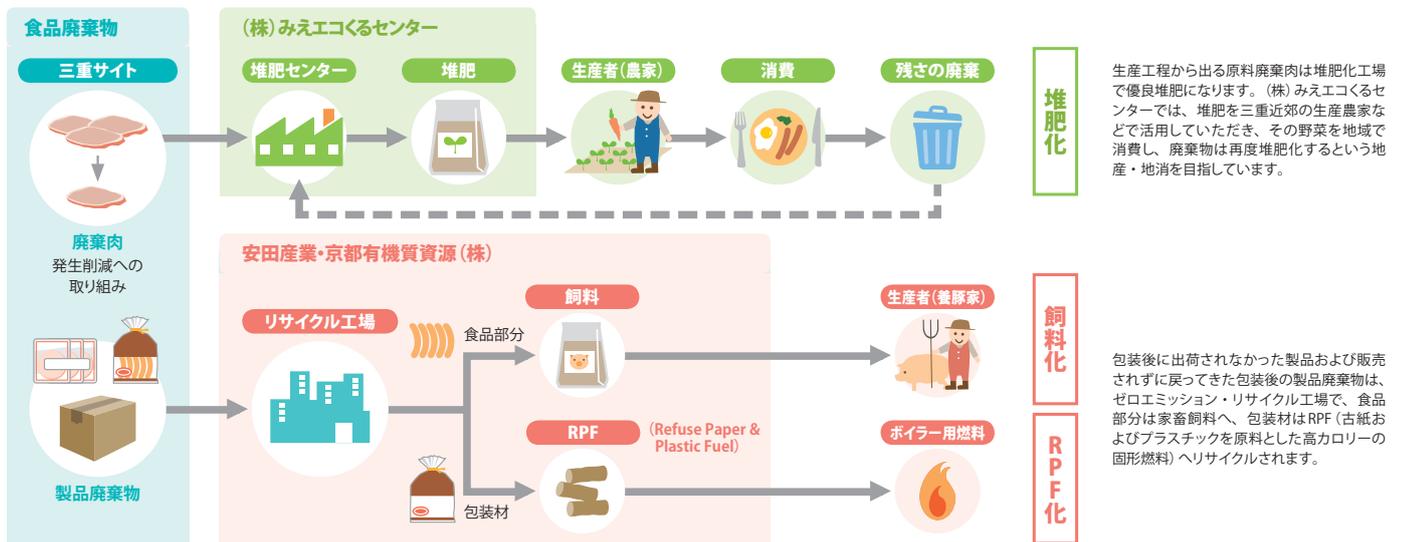
原料廃棄肉は優良な堆肥となり、三重近郊の農家で利用され、そこで生産された農作物を地域で消費し、さらにその残さを再度堆肥化する、地産・地消のサイクルの実現にいかされています。三重サイト敷地内の菜園でも利用しています。

また、製品廃棄物はゼロエミッション・リサイクル工場で、食品部分は家畜飼料へ、包装材はRPF※1へリサイクルされ、有効利用されています。

※1 RPF (Refuse Paper & Plastic Fuel) : マテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチックを主原料とする固形燃料。石炭、コークスなど、化石燃料の代替燃料として使用される。



三重サイトの食品廃棄物リサイクル



三重サイトの食品廃棄物対策

工程管理の徹底で原料廃棄肉削減

私の担当する工程では、整形・塩せき・充填など加熱をする前の原料肉を取り扱っています。落下肉削減の取り組みを実施する前は、落下肉の発生工程が不明で、対応策がわかりませんでした。そこで、工程ごとに落下肉量を調査し、どの工程に対策を取れば効果が上がるか明確にしました。月1回の環境委員会で取り組み項目を決め、成果を上げています。また、落下量データを日々チェックすることで、対策が後戻りしないよう取り組んでいます。

プリマハム(株) 三重工場 製造部

芳 茂起



健康な堆肥をつくって地域の農家に還元

三重県近郊で発生した食品廃棄物による健康な堆肥を、県内の農家で使っていただき、そこでできた農作物を県内で消費する、地産・地消のサイクルを目指し、食品リサイクルに取り組んでいます。当社では、炭水化物、たんぱく質、野菜、粉殻等をバランスよく配合し、手間隙かけて発酵させることで、作物栽培に最適な堆肥をつくっています。不純物のないプリマハムの原料廃棄肉は、優良な堆肥原料です。堆肥は、プリマハム敷地内の菜園でも使われています。

(株)みえエコくるセンター

渡邊 充 様



リサイクル事業者に引きわたすまできちんと管理

工程から発生した原料廃棄肉や製品廃棄物は、工場内にある廃棄物保管施設に各担当者によって持ち込まれます。廃棄物を適正かつ高品質でリサイクルするためには、分別を徹底する必要があります。廃棄物の持ち込み担当従業員は、原料廃棄肉と製品廃棄物ごとに分類して廃棄コンテナへ投入します。原料廃棄肉についてはビニール袋などの資材が混入しないよう、分別徹底の注意喚起を日常的に行い、分別状況を専門の担当者が毎日チェックしています。

プリマ環境サービス(株) 三重事業所

竹内 寛



ゼロエミッション工場の家畜飼料にリサイクル

当社自慢のゼロエミッション工場では、臭気を外へもらさず、水を完全循環するシステムを導入しています。また、食品廃棄物の再資源化システムで使った廃油も、重油と混合のうえ、燃料として有効利用するという環境配慮型工場でリサイクルをしています。この工場へプリマハムから持ち込まれた製品廃棄物は、まず分別機で食品部分と包装材等に分けられ、食品部分は養豚用の飼料「京(みやこ)」として再生され、包装材はRPF(固形燃料)化されています。

安田産業・京都有機質資源(株)

松原 右児 様



廃食用油のBDF化で地球温暖化防止に貢献したい

本当に使える燃料づくりに参加

熊本サイトでは、ハム・ソーセージやコンビニエンスストア向けのからあげなどの惣菜の製造を行っています。製造工程から出る年間約50kℓの廃食用油の有効利用と地球温暖化防止を目指し、農林水産省「バイオ燃料地域利用モデル実証事業」に選ばれたバイオディーゼル燃料(BDF)の製造・実用化事業に参加しています。

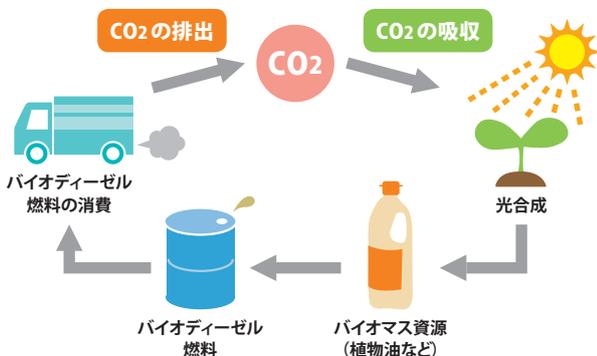


バイオディーゼル燃料(BDF)とは?

バイオディーゼル燃料(BDF)は、植物油などの再生可能なバイオマスを原料としてつくる燃料です。光合成をもとに成長した再生可能な生物由来の油などが原料なので、燃焼によるCO₂は吸収した分と同じカーボンニュートラル^{※1}な燃料として注目されています。軽油の代替として使うことで、CO₂排出量の削減に貢献できる燃料として地球温暖化対策のうへで期待され、現在、実用化に向けた開発が進められています。

日本でも2002年に閣議決定された「バイオマス・ニッポン総合戦略」^{※2}に基づき、国をあげて、BDFを含む国産のバイオマス輸送用燃料の実用化と利用促進を図るための施策を進めています。熊本サイトが参加しているBDF化事業も農林水産省が進める「バイオ燃料地域利用モデル実証事業」のひとつです。

バイオディーゼル燃料とカーボンニュートラル



※1 カーボンニュートラル：大気中のCO₂をもとに成長する植物や、その植物などをもとに成長する動物などを由来とするバイオマスの燃焼で発生するCO₂の排出は、吸収と排出でプラスマイナスゼロになるという考え。

※2 バイオマス・ニッポン総合戦略：バイオマスをエネルギーや製品などへ総合的に利活用し、持続可能な社会を目指していくための長期戦略で、2002年12月に閣議決定され、2006年3月に見直された。

どうしてプリマハムがBDF化事業に参加するの?

九州地域の企業が「久留米地域協議会」を組織して進めている「BDF-Kプロジェクト」。熊本サイトは、原料となる廃食用油の提供会社として積極的に参加しています。

これまで、資源の有効利用を目指し、廃食用油を石鹼原料としてリサイクルしていた熊本サイトですが、BDF化することで、地球温暖化対策により貢献できると考え、廃食用油のBDF化に取り組み始めました。

プリマハムが参加するBDF-Kプロジェクトってどんな事業?

地元企業のチームワークで地産・地消を実現

BDF化事業は、原料となる廃食用油の供給量やBDF化の技術、コストなどの面から考えると、一社ではなかなか取り組むことが難しい事業です。「BDF-Kプロジェクト」では、私たち熊本サイトのほか、全国展開する外食チェーンの九州地区店舗が廃食用油を提供し、BDFの製造・販売会社、BDFを使用する運輸会社が協力しあい、BDFの地産・地消の実現を目指して取り組んでいます。

実用化に向けては、十分な量の廃食用油や安定的な利用者の確保がポイントなのです。

新たなBDF化技術ですぐれた品質を確保

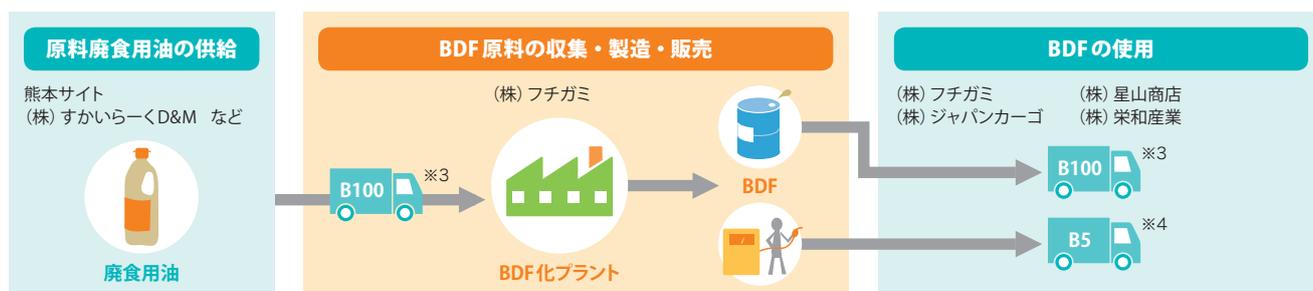
本実証事業では「アルカリ触媒新ドライ製造方式」という新たなBDF製造技術の導入を試みています。

原料の分析をきちんと行い、反応率の向上を図るとともに、反応後もさまざまな工夫を行うことで、不純物を取り除き、他に類を見ないメチルエステル純度が99%以上の高品質のBDFを製造することに成功しました。



BDF-K プロジェクト (運営：久留米地域協議会) の概要

熊本サイトや外食チェーン店が排出した廃食用油を、BDF製造・販売会社が回収し、BDF化をしています。BDFは、おもに九州地域の運輸会社等で、輸送用燃料として実際に使用されています。



※3 B100：バイオディーゼル燃料100%の燃料
 ※4 B5：軽油に5%のバイオディーゼル燃料を混ぜた燃料

実使用に向けた課題の抽出と対応策の検討

BDF100%の燃料を輸送用燃料として利用する場合においての適正なメンテナンス方法や、BDFと相性の悪いエンジン制御システムへの対応方法についての検討も進め、実用化が進められています。

CO₂削減証明書とステッカーでアピール

「BDF-Kプロジェクト」では、BDFの存在と有効性をより多くの人に知ってもらえるよう、原料供給会社やBDFを使用する運輸会社に、原料供給量やBDF使用量に見合ったCO₂削減量の証明書と広報用ステッカーを配布しています。



2009年3月に開催された「第26回全国都市緑化おかやまフェア」のシャトルバスに、「BDF-Kプロジェクト」のB100が使用されました。

Column

熊本プリマ(株)社長

村上 貴之



廃食用油のトレーサビリティも確保

廃食用油を石鹼原料として有価で提供していた時は、産業廃棄物ではないためにマニフェスト伝票は作成されず、排出物のトレーサビリティ(流通状況の確認)は把握できませんでした。

今回参加したBDF化事業では、原料収集から精製、販売までの過程を一社が行い、その流れを第三者が電子情報として管理、参加企業関係各社に報告してくれることから、流通管理が可能となっている点も、プリマハムにとっては大きな収穫です。

先進的な取り組みが従業員意識の向上へ

2008年度に熊本サイトで供給した廃食用油相当分で、135トンのCO₂を削減した計算になります。「久留米地域協議会」で発行してもらったCO₂削減証明書は、熊本サイト内に掲示しているほか、従業員の環境教育にも活用するなど、従業員の環境意識向上に役立っています。

環境マネジメント

持続可能な社会づくりに貢献するため、ISO14001による環境マネジメントシステムを主軸とした環境経営をすすめています。

環境方針

[1] 基本理念

プリマハムは、環境保全を経営の最重要課題のひとつと認識し、経営理念「商品と品質はプリマの命」「絶えざる革新でお客様に貢献」を旨とし、常にお客様の満足と安心を優先した「もの造り」を行います。

さらに、持続可能な社会の構築に向け、事業活動のあらゆる場面において従業員一人ひとりが、環境保全の意識を高め、身近なことから取り組んでいきます。

[2] 基本方針

プリマハムは、ハム・ソーセージ、食肉および加工食品等の製造販売、および養豚事業において定期的に環境目的・目標を設定し見直すと共に、環境マネジメントシステムの継続的な改善と汚染の予防のため、以下の基本方針を定めます。

1. 法規制順守

- 環境法規制および当社が同意するその他の要求事項を順守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し事業活動を行います。

2. 環境負荷の低減・汚染の未然防止

- 事業活動の推進にあたり、地域環境および地球環境の保全に配慮し、環境負荷の低減・汚染の未然防止に努めます。

3. 環境保全活動の推進

- 事業活動において、省エネルギー・省資源を図り、資源の効率的な利用に努めます。
- 事業活動において、廃棄物の削減・リサイクル化を図り、循環型社会の形成に貢献します。
- 温室効果ガスなどの地球環境に負荷を与える物質の排出削減に努めます。
- 環境保全に配慮した商品の開発に努めます。

4. 地域との共生

- 環境保全活動に積極的に参加し、地域社会への貢献と調和に努めます。

5. 啓蒙活動

- 地球環境に対する意識向上を図るため、全従業員に環境教育を実施します。
- 職場の安全意識向上を目的に、5S運動を推進します。

6. 社外への公表

- この環境方針は社外に公開するとともに、全従業員に対し周知させます。

2009年9月7日

代表取締役社長 松井 鉄也

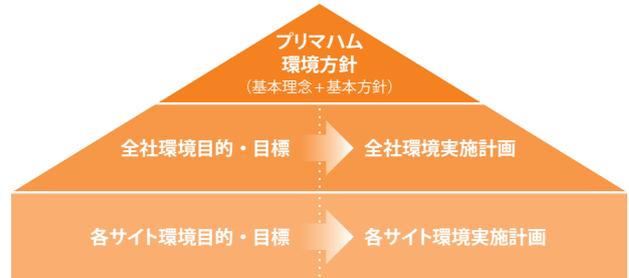
環境マネジメント体系

環境方針に基づき、環境マネジメントシステムを構築しています。

環境方針のもと、各サイトごとに環境目的・目標を設定し、達成に向けての具体的な月次計画・進捗状況を、「環境実施計画」にて管理しています。また、サイト共通の目標、および当社の重要課題となる目標を全社の目的・目標と定め、全社ベースで進捗管理を行っています。

なお、2009年9月に環境方針を改訂しました。

環境マネジメント体系図



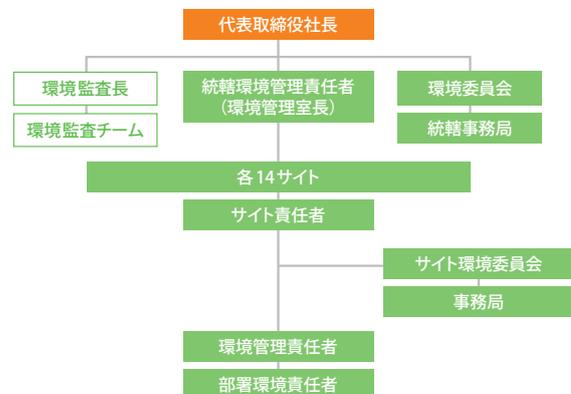
環境マネジメント体制

代表取締役社長を最高責任者とし、環境マネジメントシステムの運用管理責任者として統轄環境管理責任者を、また当社全体の環境活動の諮問機関として環境委員会を設置しています。

各サイトでの運用状況は統轄環境管理責任者が確認し、その都度、指導・助言を行っています。

また、環境マネジメントシステムの運用状況を監査する機関として、環境監査長のもと、87名（2009年3月末現在）からなる監査チームを設置しています。年1回、定期的を実施する内部環境監査では、全14サイトおよび統轄環境管理責任者を対象とし、独立性を考慮し、他サイトの内部環境監査員が監査を行う仕組みを確立しています。

環境マネジメント体制図

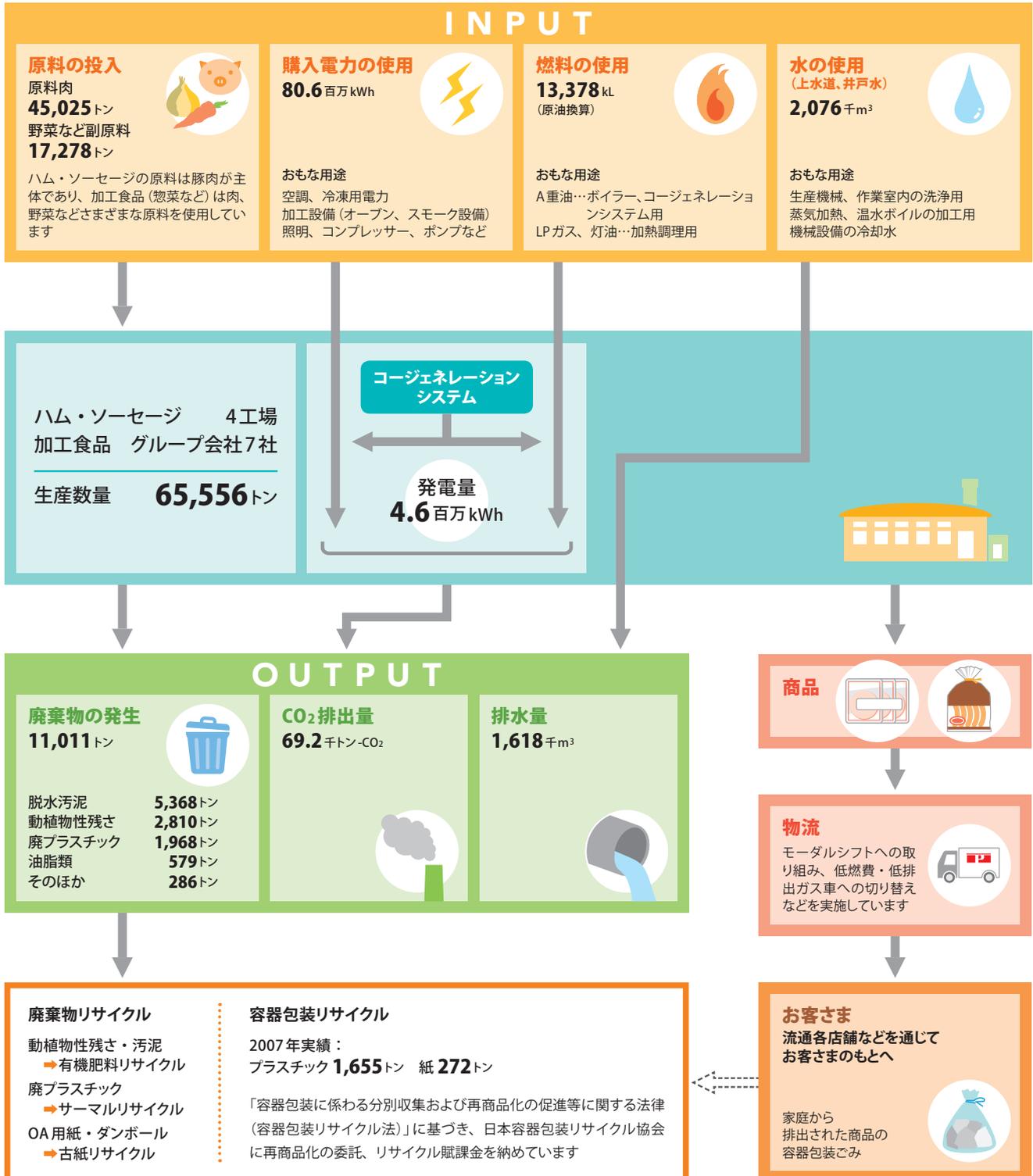


代表取締役社長	組織の最高経営層で環境マネジメントシステム全体の責任者
統轄環境管理責任者	環境マネジメントシステム構築・運用管理の責任者
環境監査長	内部環境監査全体の責任者
環境委員会	全役員・サイト責任者によって構成され、当社の環境保全活動に関し諮問を行う（年1回以上開催）
サイト責任者	サイトにおける環境活動全体の責任者
環境管理責任者	サイトにおける環境活動の推進責任者
部署環境責任者	部署における環境活動の推進責任者

環境とのかかわり

プリマハムは、原材料の投入から商品の消費・廃棄にいたるまで、さまざまな側面で環境とかがわっています。商品の製造や品質維持のためのエネルギー消費の効率化や廃棄物の発生抑制・リサイクル、容器包装対策に力を入れています。

プリマハムグループのインプット・アウトプット (2008年度)



2008年度環境目的・目標

環境方針に基づいて環境目的・目標を策定し、その達成に向けてさまざまな取り組みを進めています。目標は毎年見直し、継続的な改善を目指して取り組んでいます。

環境方針 ^(※1)	実施項目	2008年度目標	実績			評価	掲載ページ	
省エネルギー・省資源	製造工場 ^(※2) における 電力使用量の削減 ●設備動力に伴う電力使用量削減 ●OA機器・照明等による 電力使用量削減	省エネルギー対策実施目標 ^(※4) 6,883千kWh以上	省エネルギー対策実施(千kWh)			○	P.15	
			2006年度	2007年度	2008年度			
				5,128	5,925	7,933		
	事業所 ^(※3) における 電力使用量の削減(2004年度比)	電力使用量 16.6%削減	電力使用量削減率(%)(2004年度比)			○	P.17	
2006年度			2007年度	2008年度				
			17.0	19.4	18.9			
製造工場 ^(※2) における 水使用量の削減 ●設備動力に伴う水使用量削減	節水対策実施目標 ^(※5) 194千m ³ 以上	節水対策実施(千m ³)			○	P.15		
		2006年度	2007年度	2008年度				
			120	166	203			
OA用紙使用量の削減 (2004年度比)	OA用紙使用量 13.2%削減	OA用紙使用量削減率(%)(2004年度比)			○	P.17		
		2006年度	2007年度	2008年度				
			15.7	13.3	16.0			
環境負荷・汚染の低減	廃棄物排出量の削減 ^(※6) 対象廃棄物：動植物性残さ 廃プラスチック	廃棄物排出量を 2,641トンに抑える	廃棄物排出量(トン)			○	P.16	
			2006年度	2007年度	2008年度			
				2,579	2,698	2,544		
廃棄物の再資源化の推進 ^(※6) ●廃棄物リサイクル率の向上	リサイクル率を 90.7%に向上させる	リサイクル率(%)			○	P.16		
		2006年度	2007年度	2008年度				
			84.0	90.2	93.5			
環境保全型商品の販売促進	包装用フィルムの使用量削減 6.1トン削減(対前年差)	包装用フィルムの使用量削減(トン) (対前年差)			○	P.16~17		
		2006年度	2007年度	2008年度				
				45.5	89.5	27.2		
	水性印刷包材の利用推進 3商品以上で採用	水性印刷包材の利用推進			○	P.16~17		
		2006年度	2007年度	2008年度				
			—	—	4商品			
地域との共生	工場・事業所周辺の清掃	工場・事業所周辺の清掃の実施			○	P.17		
	地域行事への参画	鹿兒島 : さのさ祭りへの参画 秋田 : 納涼祭の実施など						
	植林活動への参画	北海道 : 清水グリーンフェスティバルへの参画 三重 : 柘植川上流植林活動への参画 プリマ食品 : 荒川上流森づくり						

※1 昨年度までの環境方針の枠組みに従っています。

※2 製造工場とは、北海道・茨城・三重・鹿兒島・プリマ食品・秋田・プライムフーズ・北陸プライム・四国・熊本・プリマルーケの各サイト

※3 事業所とは、品川本社・近畿の各サイト

※4 省エネルギー対策実施目標とは、統轄および各サイトで抽出した電力使用量削減に対する取り組みを実施したことによる削減推定効果の積み上げによる値(P.18~29の目標達成状況も同様)

※5 節水対策実施目標とは、統轄および各サイトで抽出した水使用量削減に対する取り組みを実施したことによる削減推定効果の積み上げによる値(P.18~29の目標達成状況も同様)

※6 当目標の対象サイトは、北海道・茨城・三重・鹿兒島の各サイト(ハム・ソーセージ製造工場)

目標達成状況

2008年度全社環境目的・目標の達成状況と、おもな取り組みについて報告します。

1 省エネルギー・地球温暖化対策

目標達成状況

省エネルギー対策実施目標

目標値 6,883千kWh 実績値 7,933千kWh

節水対策実施目標

目標値 194千m³ 実績値 203千m³

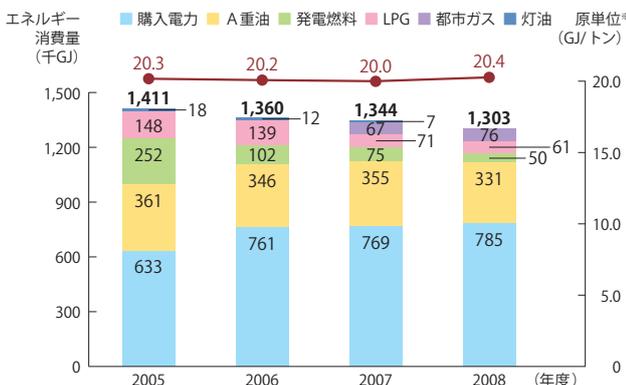
エネルギー消費量

プリマハム製造工場11サイトの2008年度のエネルギー消費量は1,303千GJでした。11サイト中の8サイトの事業所が、エネルギー使用により発生するCO₂排出量が多いと判断されるエネルギー管理指定工場(第1種:4サイト、第2種:4サイト)になっています。

省エネルギー活動は、毎年活発に取り組んでいますが、本社政策の計画と各サイトでの従業員一人ひとりの意識改革が昨年度は大きく実を結び、第1種指定工場のすべてと一部のサイトを除いたほとんどのサイトで大幅なエネルギー消費量の削減を実現し、CO₂排出量の抑制に貢献しました。

電力使用量に関しては前年比の1%増ですが、A重油、発電燃料などを含めたエネルギー総消費量では、前年度より生産数量が3.0%減少したことも影響し、1.5%の減少を達成しました。

年度別エネルギー消費量



※ エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量(GJ/トン)
 ● 小数点以下第1位四捨五入のため合計があわない年度があります。
 ● 精査により、数値を一部変更しました。
 ● データの対象範囲は製造工場11サイト

2008年度の省エネルギー活動

従業員に対する製造現場での環境配慮、省エネルギー意識の向上により行われた、昼休みの消灯や各設備の電源管理の徹底は継続的に実行推進し、電力使用量削減に大きく寄与しました。

2007年度よりスタートした茨城サイトの重点的リニューアル工事も、2009年5月に完了を迎え、特に2008年度期中については生産効率の向上により、エネルギー消費量のうち大きな割合を占める電力使用量の削減に大きく貢献しました。

中期計画に基づいた設備更新によるエネルギー効率アップについては、スモークハウス更新(北海道サイト)・スライサー更新(茨城、三重、鹿児島サイト)を計画通りに実行し、エネルギー消費抑制に寄与しました。

これらの取り組みの結果、購入電力量に発電量を加えた総電力使用量は前年度を下回ることができました。

節水への取り組み

従業員教育を通じた節水への意識づけを継続するとともに、2007年より約2年がかりで実行してきた茨城サイトリニューアルプロジェクトのひとつである、水を使わない解凍などの成果が、2008年度より徐々に始まっています。また、茨城サイトリニューアルより1年先行して進めていた三重サイトでの水を使わない解凍などの成果は、100%発揮されてきました。他サイトにおいても、洗浄水を中心に、さらに精力的に節水に取り組んでいます。

年度別水使用量



● 精査により、数値を一部変更しました。
 ● データの対象範囲は製造工場11サイト

2 廃棄物の削減・リサイクルの推進

目標達成状況

廃棄物排出量の削減（対象廃棄物：動植物性残さ、廃プラスチック）

目標値 2,641トンに抑える 実績値 **2,544**トン

廃棄物リサイクル率の向上

目標値 90.7% 実績値 **93.5**%

廃棄物排出量の削減

生産工程から発生する原料廃棄肉や、製品廃棄物の低減のため、対応した新技術の導入や細かい改善活動を行った結果、動植物性残さを大きく削減することができました。また、商品包装フィルムの厚みの低減、商品規格の統一化による裁断ロスの削減で廃プラスチックの発生抑制に努めましたが、一部工程の不具合などで廃プラスチックの削減は、5トンにとどまりました。これらの取り組みの結果、廃棄物排出量の削減目標は達成することができました。今後もロス低減や新技術導入など、積極的な取り組みを進めていきます。

※ 排水処理で繁殖・増加した微生物を沈殿除去したものが汚泥です。汚泥の排出量を削減することは、排水の水質保全のためにも難しい状況にあります。そのため、汚泥排出量の削減は2007年度より環境目標の対象外としています。

年度別廃棄物排出量



※ データの対象範囲はハム・ソーセージ製造工場4サイト

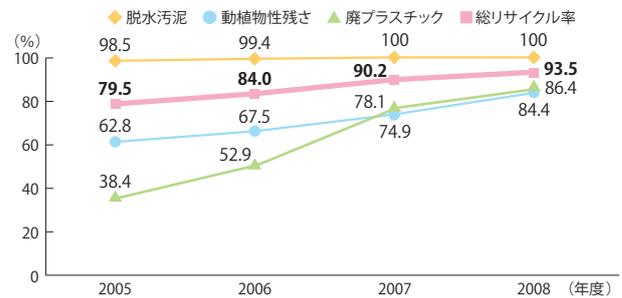
廃棄物リサイクル化の推進

廃プラスチック、動植物性残さのリサイクル率が向上し、総リサイクル目標を達成しました。

廃プラスチックは固形燃料化のさらなる推進を図り、リサイクル率は昨年度より約8%向上、2005年度から比較すると約48%の向上を達成しました。

脱水汚泥はすでに外部の中間処理施設で100%有機肥料にリサイクルしています。茨城サイトでは2008年11月より汚泥乾燥機を導入し、サイト内での全量肥料化が実現しました。(P.6～7参照)

年度別リサイクル率



※ データの対象範囲はハム・ソーセージ製造工場4サイト

3 包装における環境対策

目標達成状況

包装用フィルムの使用量削減

目標値 6.1トン(対前年度差) 実績値 **27.2**トン

水溶性印刷包材の利用促進

目標値 3商品以上 実績値 **4**商品について実施

包装用フィルム使用量の削減

包装材は、中身商品を品質面から保護するため、空気を通しにくい、破損しにくい、変形しにくいなどの機能が要求されます。包装機メーカーと協力し、現状の機能を維持したままで、より薄い包装材料の採用に努め、真空パックや硬質パケットレイの包装材で使用量削減を順次すすめています。現在、「香りの物語 ロングウインナー」や「新鮮！使い切り ロースハム」等で採用しています。また、商品1パックあたりの包装フィルムサイズの見直しを図り、包装材料使用量の削減につなげました。2008年度は前年に比べ年間27.2トン削減となり、これらがすべて焼却処理されたと仮定すれば、焼却時のCO₂排出削減量は年間69.5トンとなります。

2008年度包装材削減量とCO₂換算量

取り組み内容	削減量(トン)	燃焼時のCO ₂ 削減相当量※(トン-CO ₂)
真空パック包装材の使用量削減	12.9	33.0
硬質パケットレイの使用量削減	13.7	35.0
包装フィルムのサイズ見直し	0.6	1.5
合計	27.2	69.5

※ 「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条、排出係数一覧表」廃プラスチック697(kg-C/トン)に基づき算出しています。

水溶性印刷への取り組み

包装材の印刷過程で発生する揮発性有機化合物 (VOC) 排出削減のため、一部の商品に従来の有機溶剤を使用した油性インキではなく、水とアルコールを使用した水溶性インキを採用しました。2008年度は3商品以上での採用を目標としましたが、4商品で採用し、目標を達成しました。現在、「新鮮! 使い切り ロースハム」および「ロースハム 130g」などで採用しています。今後も水溶性インキを採用した製品を増やしていきます。



水溶性インキを使用した「新鮮! 使い切り ロースハム」

4 オフィスにおける環境配慮

目標達成状況

事業所における電力使用量の削減

目標値 16.6%削減 (2004年度比) 実績値 18.9%削減

OA用紙使用量の削減

目標値 13.2%削減 (2004年度比) 実績値 16.0%削減

電力使用量の削減

省エネルギーへの取り組みとして、昼休み時間帯の照明一斉消灯やエアコンの温度管理、パソコン画面の省エネモード設定などを行っています。消灯や温度管理の状況はエコリーダーがチェックし、問題点・課題などはサイト環境委員会にて議論され、改善へ向けた方策を検討しています。また、事業所内各所に節電を促す啓蒙ステッカーを掲示し、節電への呼びかけを常に行っています。

また、2008年4月より環境省が推進する地球温暖化防止に向けた国民的プロジェクト「チームマイナス6%」に参加しています。クールビズ・ウォームビズなどの実施を通して、従業員の環境意識向上を図るとともに、環境保全活動への取り組みを強化していきます。

電力使用量



●データの対象範囲は品川本社・近畿サイト

OA用紙使用量の削減

OA用紙使用量の削減のため、両面コピーの促進や裏紙回収BOX設置による裏紙使用などの徹底、プロジェクターを使用した印刷資料を使わない会議の実施などを推進しています。また、従業員の意識向上をより一層図るためにも、印刷の都度、使用目的・枚数等の記入、月次目標値オーバーの際は該当部署への給紙を停止するなど、サイトごとに工夫しながら、目標達成に向けた取り組みを展開しています。

OA用紙使用量



●データの対象範囲は太平洋牧場を除く13サイト

5 地域環境活動への参画

私たちの事業活動は、社会の皆さまに支えられています。

各生産拠点や事業所では、地域とのより良い関係を目指して、森林保全や清掃活動・地域行事への参加などに努めています。2008年度は、これまでの埼玉(荒川上流)、三重(柘植川上流)での植林活動に加え、北海道でも「清水グリーンフェスティバル」へ参画しました。

また、2008年度からエコキャップ回収運動を開始しました。各サイトで回収した不要なペットボトルのキャップは、「NPO法人エコキャップ推進協会」を通して再資源化され、その売却益がポリオワクチンの購入資金として世界の子供たちの命を救うために活用されています。

※ ペットボトルのキャップ800個でポリオワクチン1人分。800個を仮に焼却処理すると、7,300gのCO₂が排出されることとなります。

北海道サイト



所在地 北海道上川郡清水町本通西2-11-1
人員数 250人
敷地面積 19,505m²
認証取得状況 ISO14001、ISO22000、HACCP、JAS、熟成JAS
おもな事業活動 ハム・ソーセージ・ベーコンの製造
問い合わせ先 プリマハム(株) 北海道工場 総務課
 TEL：0156-62-2142
生産数量(2008年度) 3,993トン



サイト責任者
 プリマハム(株) 北海道工場長

今井 重男

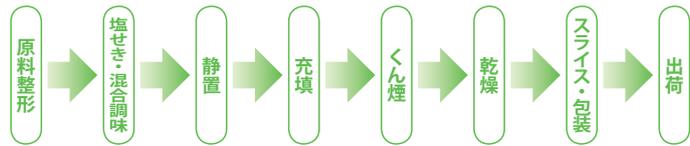
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・十勝グルメの便り ロース生ハム
- ・北海道十勝カルパス
- ・100円カルパス



十勝グルメの便り ロース生ハム



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	251千kWh	272千kWh	○
節水対策実施	7,599m ³	8,242m ³	○
廃棄物排出量の削減*	215トン	157トン	○
廃棄物リサイクル率の向上	88.0%	89.9%	○

※対象物: 動植物性残さ、廃プラスチック

省エネルギー対策としては、コンプレッサーを最新設備に更新することで消費電力削減はもちろんのこと、稼働台数制御運転ができるようになったことで421kWh/日の削減対策となり、対策実施目標達成の大きな要因となりました。節水では、中間洗浄作業の効率化に取り組み、廃棄物削減では、本来業務である歩留まり改善の取り組みにより、それぞれ目標を達成しました。

■おもな活動内容

● 燻製用チップかすりサイクルへの取り組み

燻製とは、風味付けや保存性の付与、酸化防止などを目的とした、製品表面に煙を付着させる方法で、当工場ではウインナーやカルパスなどの製造の際に燻製材としてサクラのチップを使用しています。使用後のチップかすは産業廃棄物として処理してきましたが、2008年度から近隣の農場へ安価でお譲りしており、農場にてチップかすをそのまま畑に散布し、大豆生産の際の殺菌剤(農薬効果)としてご使用いただいています。

● 植樹祭(清水グリーンフェスティバル)への参画

環境保全活動として、2008年6月に清水町林業推進協議会主催の植樹祭「清水グリーンフェスティバル」へ従業員家族合わせて10名で参加し、サクラやハルニレなどの苗木400本を、町民レクリエーションの森へ植樹しました。この植樹祭は2005年から始まったイベントで、次年度以降も北海道サイトとして参加していく予定です。



■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位

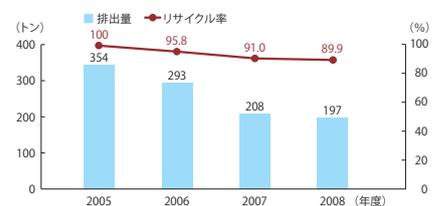


※エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



● 包装済製品の処理方法変更によりリサイクル率が低下しています。

大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

汚染物質	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.25	0.01
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	150	130
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	8.4	7.1
BOD (mg/L)	60	54	2.7
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	30	3.4	2未満
SS (mg/L)	70	20	2未満
T-N (mg/L)	—	—	—
T-P (mg/L)	—	—	—
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	3,000	92	0

※ 日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

茨城サイト



所在地 茨城県土浦市中向原 635
人員数 900人
敷地面積 115,900m²
認証取得状況 ISO14001、ISO22000、HACCP、JAS、熟成JAS
おもな事業活動 ハム・ソーセージ・ベーコンの製造、商品開発および研究
問い合わせ先 プリマハム(株) 茨城工場 管理部 総務課
 TEL：029-842-1021
生産数量(2008年度) 18,228トン



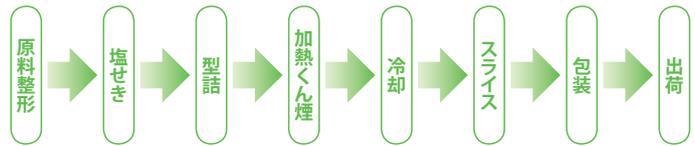
サイト責任者
 プリマハム(株) 茨城工場長

大森 雅夫

○ おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・新鮮!使い切りハーフベーコン3連
- ・フランクソーセージ
- ・香薫あらびきポークウインナー
- ・香りの物語 ロングウインナー



■ おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	1,950千kWh	2,106千kWh	○
節水対策実施	15,125m ³	15,325m ³	○
廃棄物排出量の削減*	1,160トン	1,221トン	×
廃棄物リサイクル率の向上	87.0%	92.2%	○

※対象物:動植物性残さ、廃プラスチック

節水対策では、原料肉の解凍に冷水を使用しない方法への変更、設備の稼働台数を減らすなどの対策を実施しました。廃棄物排出量の削減では、生産数量が増えた結果、廃棄物発生量も増加し、目標を捉えることができませんでした。廃棄物のリサイクルは、継続的な取り組みで、リサイクル率90%以上を達成。特に汚泥乾燥機を新規導入し、肥料リサイクル化を実現したことで非常に大きな効果が表れました。

■ おもな活動内容

● 省エネルギーへの取り組み

2008年度の改革プロジェクトでは生産ラインのレイアウトを大幅変更し、冷蔵スペース統合、生産時間の短縮化などで電力使用量の削減に大きな成果をあげました。また使用時間が長い照明器具は、高効率タイプへの切り替えも着実に進めています。設備更新以外にも、手順書を運用してこまめな節電管理をするなどの省エネにも全員参加で取り組んでいます。節水対策では、自動洗浄設備の導入により水使用量を削減。

また加熱工程の温水タンク容量を見直し、台数削減を進めるなど、削減効果をあげることができました。

● エコ事業所に登録認定

茨城県が主催するエコ事業所登録制度に申請し、2008年10月登録認定を受けました。環境に配慮した取り組み(省資源、廃棄物の分別・リサイクル、清掃活動など)を通じ、茨城県の環境保全活動に参加しています。また取引先の配送車にアイドリングストップの協力呼びかけを行うなど、積極的な活動を進めています。

■ 環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

物質	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.25	0.01
	発電機	0.10	0.03
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	4.59	0.08
	発電機	2.48	0.02
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	150	91
	発電機	950	180
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	6.0~8.2	7.3	6.5
BOD (mg/L)	10	8.4	0.5
COD (mg/L)	10	12	4.6
N-HEX (mg/L)	5	1未満	1未満
SS (mg/L)	15	2	1未満
T-N (mg/L)	10	19.5	0.5
T-P (mg/L)	1	0.31	0.04未満
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	1,500	400	0

※日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

2008年度は水質汚濁防止法に関し、県条例で定められている排水基準(窒素、COD)を超過する事故が2件発生しました。原因は、浄化槽に流入した排水量の流量調整が適切でなかったために起こした事故でした。県に発生状況を報告し、事故後、排水量の流入調整について、手順の見直しと担当者への再指導を行い、再発防止への対応を図りました。

三重サイト



所在地 三重県伊賀市御代1
 人員数 520人
 敷地面積 186,124m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000、HACCP、JAS、熟成JAS
 おもな事業活動 ハム・ソーセージ・ベーコンの製造
 問い合わせ先 プリマハム(株) 三重工場 総務課
 TEL: 0595-45-2711
 生産数量 (2008年度) 14,325トン



サイト責任者
 プリマハム(株) 三重工場長

大谷内 勝義

○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・香薫あらびきポークウインナー
- ・新鮮!使い切り ロースハム
- ・新鮮!使い切り ハーフベーコン



香薫あらびき
 ポークウインナー



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	2,164kWh	2,219kWh	○
節水対策実施	61,726m ³	62,942m ³	○
廃棄物排出量の削減*	885トン	804トン	○
廃棄物リサイクル率の向上	92.7%	94.6%	○

※対象物: 動植物性残さ、廃プラスチック

実施項目すべてにおいて目標を達成することができました。特に廃棄物削減については、工程での原料廃棄肉の削減をメインに取り組み、成果をあげています。毎月サイト環境委員会でテーマを選定し、取り組みを実施し効果を出しています。また、改善が後戻りしないように日々原料廃棄肉のデータを把握し、意識啓蒙も行っています。

■おもな活動内容

●剥離紙不使用のラベラー機導入

ラベルを商品に貼りつける際、ラベル剥離紙は廃棄物として廃棄されます。経年劣化したラベラー機を更新する際に剥離紙を使用しない機械を導入し、剥離紙の廃棄量削減を実現しました。2005年4月の導入を皮切りに現在3台が稼働しており、年間3トンの廃棄量の削減につながっています。今後も設備の更新の際にはこのタイプのラベラー機を導入し、環境にやさしい取り組みを行っていきます。

●環境保全活動として柘植川上流の植樹へ参画

環境保全活動のひとつとして伊賀市柘植川上流の森林保護のため、2008年4月に植林活動を実施しました。前年に続く2回目の活動で、工場長をはじめ、従業員とその家族45名が参加し、伊賀森林組合の指導のもと、サクラやモミジの苗木約50本の植林を行いました。自分たちが植えたモミジやサクラの成長に喜びを感じています。



■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.30	0.01
	発電機	0.10	0.01
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	22	0.11
	発電機	0.18	0.10
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	180	96
	発電機	950	900
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	7.7	7.2
BOD (mg/L)	20	5.8	1.0
COD (mg/L)	20	11	4.9
N-HEX (mg/L)	3	0.5未満	0.5未満
SS (mg/L)	70	2.7	1.0未満
T-N (mg/L)	60	7.9	0.9
T-P (mg/L)	8	4.4	0.1
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	3,000	1	0

※ 日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

鹿児島サイト



所在地 鹿児島県いちき串木野市下名 11900
 人員数 500人
 敷地面積 74,520m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000、HACCP、JAS、熟成JAS
 おもな事業活動 ハム・ソーセージの製造、生肉加工
 問い合わせ先 プリマハム(株) 鹿児島工場 総務課
 TEL：0996-32-2111
 生産数量(2008年度) 8,263トン



サイト責任者
 プリマハム(株) 鹿児島工場長

辛島 亨

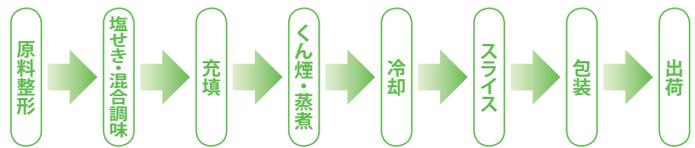
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・香蕉あらびきポークウインナー
- ・新鮮! 使い切りロースハム
- ・デリシャスウインナー



新鮮! 使い切り ロースハム



おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	83千kWh	83千kWh	○
節水対策実施	2,603m ³	2,603m ³	○
廃棄物排出量の削減*	381トン	360トン	○
廃棄物リサイクル率の向上	94.0%	94.4%	○

*対象物: 動植物性残さ、廃プラスチック

省エネルギー対策では、省エネ型照明(Hf型)への更新、不要給水ポンプの停止、レイアウト変更によるコンベアの撤去等により対策実施目標を達成。廃棄物排出量削減では、歩留まりの向上、包装材有効率の向上を図ることで廃棄物の削減が実現されました。リサイクル率の向上では、汚泥の堆肥化、動物性残さの油脂化・飼料化、廃プラスチックのRPF固形燃料化に取り組んでいます。

おもな活動内容

● 節水への取り組み

工場で使用する水の送水圧力を落とすことで、大幅な水使用量の削減が実現でき、また、使用する容器数の削減、生産ラインの統合で洗浄回数が減り、水使用量の削減が図れました。生産設備についても洗浄しやすい構造とすることで水使用量の削減となるなど、取り組みを継続して行うことで、2008年度の水使用量は2004年度に対し、20%減(75トンの削減)と大幅な改善となりました。

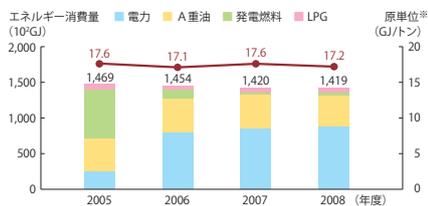
● 地域行事への参画

当サイトは、いちき串木野市で最初の誘致企業として知名度が高く、地域貢献へ高い期待が寄せられています。毎年海の日には、市主催の清掃活動に参画し、海岸1kmにわたって清掃しています。そのほか、地元で開催される「さのさ祭り」「地かえて祭り」「ウォーキング大会」などにも積極的に参加しています。



環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



*エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.30	0.01
	発電機	0.10	0.07
	焼却炉	0.25	0.13
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	1.97	0.48
	発電機	1.09	0.94
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	—	—
	発電機	950	930
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	7.7	7.3
BOD (mg/L)	30	29	2.5
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	15	2.5未満	0.5未満
SS (mg/L)	50	31	5未満
T-N (mg/L)	—	—	—
T-P (mg/L)	—	—	—
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	1,000	0	0

※ 日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

プリマ食品サイト



所在地 埼玉県比企郡吉見町大字長谷 1951
 人員数 150人
 敷地面積 25,354m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食品の製造
 問い合わせ先 プリマ食品(株)
 TEL：0493-54-5566
 生産数量(2008年度) 3,567トン



サイト責任者
プリマ食品(株)社長

安田 能史

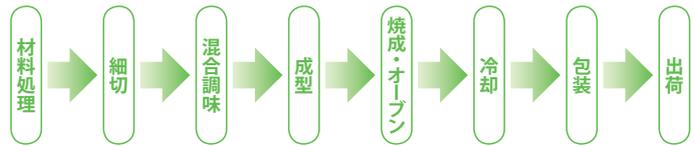
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・直火焼ハンバーグ
- ・ももからあげ
- 和風しょうゆ仕立て
- ・チキンナゲット



直火焼ハンバーグ



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	416千kWh	742千kWh	○
節水対策実施	3,114m ³	3,488m ³	○
動植物性残さ排出量削減(生産数量比) [※]	1.90%	2.06%	×
廃棄物リサイクル率の向上(廃プラスチック・焼却灰)	90.0%	98.0%	○

※生産数量に対する廃棄率: 排出量 ÷ 生産数量にて算出

汚泥の脱水率向上により、焼却炉の稼働時間が短縮され、省エネルギー・節水対策ともに効果があがりました(焼却炉は2008年10月より停止)。廃棄物排出量の削減は、生産数量の変動などが起因し、目標を達成できませんでした。焼却灰は埋め立てからコンクリート固化したことでリサイクル率が向上しました。

■おもな活動内容

●省エネルギーへの取り組み

2007年7月、従来のLPGから都市ガスへ切り替え、液体燃料をヒーターで温めてガス化していた際の電力使用が16千kWh/年削減でき、CO₂削減にもつながりました。また、コンプレッサーの更新では、55kWの設備1台稼働から37kWの設備2台稼働に切り替え、工場稼働状況に応じて1台停止させるなど、75千kWh/年の電力削減も実現。このほか、人感知センサー付照明器具の採用、自動販売機の設置台数削減など、省エネへの取り組みを進めています。

●荒川上流森づくりへの参画

2006年3月に社団法人埼玉県農林公社と締結した「プリマハム森づくり協定書」に基づき、毎年、森林保全活動に参加しています。3回目となる2008年度は、社団法人埼玉県農林公社の方で指導のもと、植木の剪定や間伐などを実施しました。年に一度の行事として定着しつつあり、今後も継続して実施していきます。



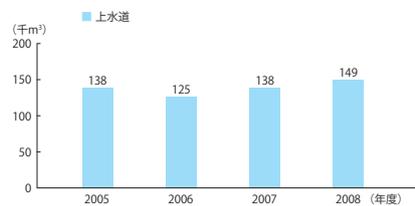
■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

●対象設備はありません。

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	8.2	8.1
BOD (mg/L)	20	3.9	1.8
COD (mg/L)	20	16	6.6
N-HEX (mg/L)	30	14	0
SS (mg/L)	50	13	0
T-N (mg/L)	18	6.5	2.0
T-P (mg/L)	3.0	0.5	0.1
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	3,000	500	0

※日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

2008年6月に火災事故が発生しましたが、外部への環境影響はありませんでした。ハンバーグ熟処理ラインの運転時に、焦げかす等へガスバーナーの火が引火したもので、消防署指導のもと、設備等の改善を適切に行いました。

秋田サイト



所在地 秋田県由利本荘市石脇字赤冗1番地
 人員数 135人
 敷地面積 57,130m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食品の製造
 問い合わせ先 秋田プリマ食品(株)
 TEL: 0184-23-4186
 生産数量(2008年度) 2,686トン



サイト責任者
秋田プリマ食品(株) 社長

丹羽 博和

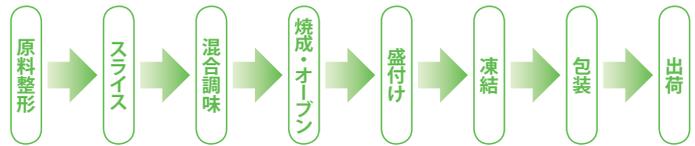
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- 豚カルビ焼肉
- ソースで食べるハンバーグ
- 中華五目野菜春巻き



豚カルビ焼肉



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	363kWh	449kWh	○
節水対策実施	2,550m ³	2,599m ³	○
廃棄物リサイクル率の向上	77.0%	80.8%	○

電力削減については、固定比率の大きい冷凍機設備への投資を実施し、計画以上の効果が出ました。さらに、照明電力の取り組みとして従業員教育の継続を実施し、共通エリアへの自動点滅装置の設置などで効果が表れました。節水対策としては、再生水の再利用化を推進し、多量に使う設備・装置の手順書を見直すなど、教育を強化し周知徹底を図りました。

■おもな活動内容

● 廃棄物の削減とリサイクル率向上

廃プラスチックは、汚物付着状況などリサイクル化の制約条件が厳しいことが課題でした。2008年度は廃棄物処理業者と協議し、分別を3区分から2区分に変更し、現場で確実に分別できる工夫をしました。2009年3月からRPF固形燃料化リサイクルを開始しています。また製造工程から排出される動植物性残さも原料肉落下の防止、設備・生産方法の見直しによる仕損の抑制などに努め、これらの結果、2008年度は前年比で廃棄物の排出量68トン、処理費用130万円の削減が実現できました。

● インターンシップ・職場体験学習の受け入れ

地域への貢献・地元の方との交流活動としてインターンシップ・職場体験の受け入れを実施しています。2008年度は秋田県立大学の学生2名が夏期休業を利用して5日間インターンシップを行い、品質管理・検査実習の経験、各ラインに入っての製造作業を実習されました。また本荘北中学校生による職場体験では、製造現場での作業体験を2日間行いました。「お金を稼ぐことの苦労が分かった」「人との触れあいを感じた」などの感想をいただき、良い体験となってくれたようです。

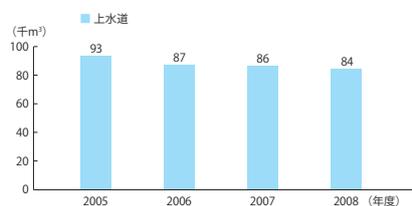
■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.30	0.01
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	17	0.72
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	180	99
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	8.3	7.9
BOD (mg/L)	30	10.0	0.5
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	30	5未満	5未満
SS (mg/L)	70	24	5未満
T-N (mg/L)	—	—	—
T-P (mg/L)	—	—	—
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	3,000	35	0

※日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

プライムフーズサイト



所在地 群馬県前橋市力丸町487-3
 人員数 130人
 敷地面積 16,100m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食品の製造
 問い合わせ先 プライムフーズ(株)
 TEL: 027-265-4147
 生産数量(2008年度) 3,248トン



サイト責任者
 プライムフーズ(株)専務

大川 卓巳

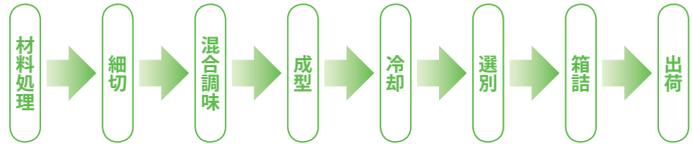
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・業務用ハンバーグ
- ・業務用トンカツ
- ・業務用チャーシュー



業務用ハンバーグ
 (調理イメージ)



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	671千kWh	972千kWh	○
節水対策実施	17,008m ³	23,236m ³	○
廃棄物排出量の削減*	15トン削減	17トン削減	○
廃棄物リサイクル率の向上	50.0%	57.7%	○

*対象物:パン粉

省エネルギー対策では、冷凍機2基の交互運転が大きな効果を生み、生産の効率化による2基の同時使用を抑制し、電力の削減へとつながりました。節水対策では、本社給水ポンプの更新を行い、月間1,200m³と計画以上の削減効果を実現。ともに目標を大きく超える削減対策の実施が実現しました。

■おもな活動内容

●廃棄物の分別強化によるリサイクル率向上

ISO14001導入までは、動植物性残さは焼却処理と堆肥化、廃プラスチックはほぼ焼却処理していました。リサイクル率向上を目指し、2007年9月に工場内での分別方法を細分化、廃プラスチックはリサイクル処理に変更し、自社焼却をやめました。動植物性残さも大半を堆肥化とし、リサイクル率は63%となりました。脱水污泥の燃え殻の路盤材料へのリサイクル化に向けた調査も開始しており、実現に向け進めています。

●包装材使用量削減への取り組み

業務用商品の生産が主のため、得意先の要望もあり包装フィルムの厚みや大きさの変更は、当社独自ではできません。そこで、配送に使用するダンボールの厚さ変更注目し、材質をAフルート(厚さ約5mm)からCフルート(厚さ約4mm)に変更することで、14g/m²の軽量化につながりました。さらに、生産数量が多い商品や生産期間が長い商品は、表示ラベルをダンボールに直接印刷することで、ラベル紙の削減を図っています。

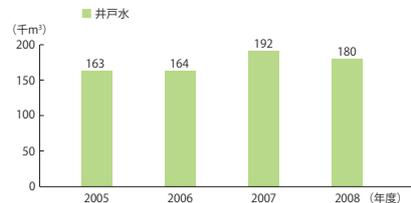
■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



*エネルギー消費原単位: 生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



*資材納入形態の変更によりリサイクル率が低下しています。

大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	0.30	0.03
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	1.80	0.33
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	180	63
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	7.8	7.1
BOD (mg/L)	25	5	2.8
COD (mg/L)	25	20	3
N-HEX (mg/L)	30	2	1未満
SS (mg/L)	50	39	2未満
T-N (mg/L)	120	15	0.9
T-P (mg/L)	16	3.4	0.1未満
大腸菌群 (個/cm ³) [※]	3,000	13	0

※日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

北陸プライムサイト



所在地 富山県射水市鷺塚12
 人員数 120人
 敷地面積 11,989m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食品の製造
 問い合わせ先 北陸プライム(株)
 TEL：0766-55-1110
 生産数量(2008年度) 1,583トン



サイト責任者
北陸プライム(株) 社長

荒井 正巳

○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・まいにちのおべんとう
ミートボールケチャップソース
- ・カルピ丼の具
- ・豚そぼろ



まいにちのおべんとう
ミートボール
ケチャップ
ソース



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	36千kWh	36千kWh	○
節水対策実施	351m ³	351m ³	○
廃棄物排出量の削減*	80.6トン	23.4トン	○

※対象物:動植物性残さ、廃プラスチック

省エネルギー対策として、エアコンプレッサー22kW更新時、ワイドレンジインバーター式のエアコンプレッサーに更新することによって、電力量の20%削減が実現(導入時にはメーカーとタイアップし、負荷率を検証、仕様を決定)。また節水対策では、工場内のトイレに設置されている給水タンク全14ヶ所に水が入った500mlペットボトルを入れ、一度に流す水の量を削減し、月間約3m³の節水を実現しました。

■おもな活動内容

●廃棄物リサイクル率向上への取り組み

これまで製造工程で発生する動植物性残さは焼却処分していました。しかし循環型社会を目指し、2007年12月からリサイクル化への取り組みを開始し、飼料や肥料にリサイクルしています。これに伴い、工程からの動植物性残さは専用容器による分別が必要となりましたが、分別を徹底させるため、手順書を作成し、従業員への教育を実施しています。今後もリサイクル率向上に向け取り組みを進めていきます。

●インターンシップ・職場体験学習の受け入れ

地域への貢献活動として職場体験の受け入れを実施しています。早期離職者・ニート・フリーターなど、就業に悩む若者の職業的自立の手助けとして、富山県若者就業支援センターを介し、2008年9～12月に12名の職場体験を受け入れました。対象者を2名ずつの6グループで各2週間ずつ、製造現場での実習を行っていただきました。また、富山養護学校からも生徒1名の就業体験として10日間の実習を行っていただきました。

■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

●対象設備はありません。

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5～9	6.9	5.9
BOD (mg/L)	600	320	57
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	30	25	9.1
SS (mg/L)	600	72	10
T-N (mg/L)	—	—	—
T-P (mg/L)	—	—	—
大腸菌群 (個/cm ³)	—	—	—

●公共下水道の排水基準に準じて下水放流しています。

環境関連事故・法規制違反など

なし

四国サイト



所在地 香川県丸亀市綾歌町岡田上1579-1
 人員数 60人
 敷地面積 2,499m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食肉製品の製造
 問い合わせ先 四国フーズ(株)
 TEL：0877-86-3301
 生産数量(2008年度) 2,892トン



サイト責任者
四国フーズ(株)社長

加藤 哲一

○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・国産鶏肉使用肉だんご
- ・ミニハンバーグ和風てりやき
- ・国産鶏肉使用生つくね
- ・中華風肉だんご



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価	
省エネルギー対策実施	150kWh	179kWh	○	
節水対策実施	3,660m ³	4,490m ³	○	
廃棄物排出率* の削減	廃プラスチック	2.20%以下	2.36%	×
	動植物性残さ	2.85%以下	2.41%	○

* 生産数量に対する廃棄率：排出量÷生産数量にて算出

ハンバーグ製造ラインの成型機をドラム式に変更したことで、稼働時間の短縮による省エネルギー、歩留まりの向上による廃棄物排出量削減に寄与し、それぞれの目標を達成しました。節水対策では、原料検品工程で使用していた解凍槽の廃止、流水解凍からパブリング解凍への切り替えにより、目標を大きく上回る削減ができました。

■おもな活動内容

●物流便の削減による排ガスの低減と廃棄物の削減

「中華風肉だんご」に使用しているタレは、従来の社外仕入れから自社製造に切り替え、内製化を実現しました。これにより、社外仕入れ時の埼玉県から香川県までの総輸送距離9,620km/年の短縮、それに伴う排気ガスの低減にもつながりました。また、社外仕入れ時は、キュービテナーと呼ばれるポリエチレン製容器で納入され、年間約1,370ケース廃棄していましたが、内製化によりそのプラスチック廃棄量削減にも大きく貢献しました。

●従業員からの提案制度導入

2008年度から全従業員を対象に、工場改善の提案を促す従業員提案制度を導入しました。提案提出件数45件/年を目標とし、第1回目はサイトの目標である「5S運動の推進」に関連して『定位置管理』をテーマに提案を募集しました。結果、目標を上回る68件の提案があり、それをもとに、資材庫の備品類の名札つけによる置き場の明確化など改善を行いました。従業員の意識も高まり、社内も整備されてきています。

■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



* エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



● 2008年度よりダンボール等のデータの取得を開始しました。

大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	—
	発電機	—
	焼却炉	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	0.86
	発電機	—
	焼却炉	—
NOx (ppm)	ボイラー	—
	発電機	—
	焼却炉	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	7.8	7.1
BOD (mg/L)	25	4.4	1未満
COD (mg/L)	20	14	7
N-HEX (mg/L)	20	1未満	1未満
SS (mg/L)	40	13	1未満
T-N (mg/L)	22	18	1.5
T-P (mg/L)	2.6	2.2	0.05未満
大腸菌群 (個/cm ³) [*]	3,000	420	20

* 日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

熊本サイト



所在地 熊本県菊池市七城町林原1
人員数 330人
敷地面積 48,767m²
認証取得状況 ISO14001、ISO22000、HACCP、JAS、熟成JAS（加工食品部）、NDF-HACCP（デイリー食品部）
おもな事業活動 ハム・ソーセージ・惣菜の製造、調味生肉、生肉加工
問い合わせ先 熊本プリマ(株)
 TEL：0968-26-4111
生産数量（2008年度） 5,715トン



サイト責任者
熊本プリマ(株) 社長

村上 貴之

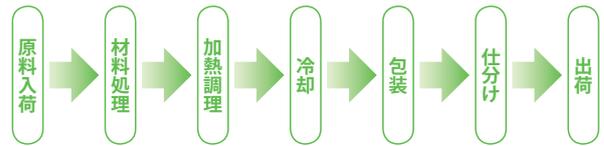
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・業務用ポークハム
- ・業務用ポークウインナー20g
- ・コンビニエンスストア向け惣菜（太平燕、ちよぼ焼き、パスタなど）



太平燕



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	69千kWh	91千kWh	○
節水対策実施	3,690m ³	3,708m ³	○
廃棄物排出量の削減*	9.0トン	8.2トン	○

*対象物:汚泥

排水処理施設の運用見直しにより、常時稼働していたフロアを半分稼働時間に抑えることで省エネルギー対策に大きな効果がありました。節水対策では、各工程のホースのウォーターガン方式への切り替え、毎日の清掃時に使用するタンクのプロート式への変更などにより、対策実施の目標は達成しましたが、品質向上のためのシャワーの増設、野菜原料の水洗い化等により、総使用量は増加しました。

■おもな活動内容

●省エネルギーへの取り組み

ISO14001導入以降、食堂の消灯運動やHf（3波長）型蛍光灯の新規設置、省エネ型エアコンプレッサーの導入、各工程のホースにカプラーを取りつける節水対策など、省エネルギー活動に取り組んできました。2009年3月には工場1階と2階にあったスライス室を1階に統合、これにより照明・空調・エレベーター・冷蔵庫等に伴う電力使用量の削減が図れ、照明電力では年間4,600kWhの削減効果が出る見込みです。

●販売トラックの燃費向上への取り組み

販売トラックを4台保有していますが、1台を低燃費車に入れ替えました。結果、2008年度の燃費は8.4 km/Lと向上しました（2007年度は7.0km/L）。また、ドライバーごとに燃費月報を作成し、エコドライブやアイドリングストップに取り組みながら燃費向上に努めています。販売車の駐車スペースには、全4台分の給電設備を設置し、駐・停車時でも庫内の温度管理をしながらエンジンを止める取り組みを実施しています。

■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



*エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	—	—
	発電機	0.10	0.03
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	—	—
	発電機	2.64	0.26
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	—	—
	発電機	950	630
	焼却炉	—	—

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	7.9	7.3
BOD (mg/L)	40	26	1未満
COD (mg/L)	40	37	1
N-HEX (mg/L)	30	0.5未満	0.5未満
SS (mg/L)	60	31	1
T-N (mg/L)	120	22	6未満
T-P (mg/L)	16	11	0.8未満
大腸菌群 (個/cm ³) [*]	3,000	0	0

*日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

プリマルーケサイト



所在地 長崎県雲仙市国見町土黒己120番地
 人員数 52人
 敷地面積 8,600m²
 認証取得状況 ISO14001、ISO22000
 おもな事業活動 加工食品の製造
 問い合わせ先 プリマルーケ(株) 総務部
 TEL：0957-78-2929
 生産数量(2008年度) 1,056トン



サイト責任者
プリマルーケ(株) 社長

村上 進

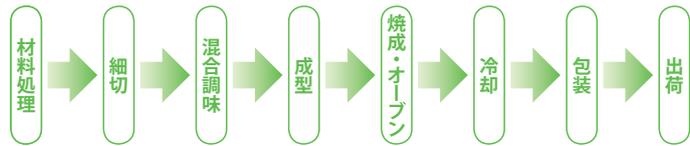
○おもな生産商品と生産工程フロー

おもな生産商品

- ・直火焼ハンバーグ
- ・直火焼ミニハンバーグ
- ・うまか酢豚
- ・メンチカツ



直火焼ミニハンバーグ



■おもな目標達成状況

■ 全社集計目標 ■ サイト独自目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	112千kWh	115千kWh	○
節水対策実施	10,300m ³	10,300m ³	○
廃棄物排出量の削減*	102トン	61トン	○
廃棄物リサイクル率の向上	100%	100%	○

※対象物：動植物性残さ

部署ごとに省エネルギー対策の計画書を策定し、2008年度は省エネルギー対策として省エネ型ボイラーへの更新を実施。節水対策として、クーリングタワーのオーバーフロー防止策を講じ、ともに着実な効果が出ました。廃棄物排出量の削減は、歩留まりの向上、梱包材使用量の削減、事務系の廃棄物のリサイクル化の推進等に取り組んでおり、廃棄物のリサイクル率はすでに100%を達成し、維持管理に努めています。

■おもな活動内容

●フィルム使用量削減への取り組み

梱包材使用量削減として、主力商品である「うまか酢豚」の包装フィルム使用量の削減に取り組みました。包装フィルム設計の見直し・変更を行い、パックサイズを1パックあたり5.43gから4.70gへ縮小化し、2008年度の削減目標83.8kgに対し、実績162.6kg削減と大幅に達成することができました。今後も梱包材の見直しや対象商品を広げるなど省資源に向けた取り組みを推進していきます。



●障がい者雇用と地域活動への参加

当社は重度障がい者多数雇用事業所として設立されました。ノーマライゼーションの実践を目指し、障がい者業務遂行援助者を継続的に配置し、2008年度も2009年4月からの新規採用に向けて3名の現場研修を行いました。一方、障がいの有無にかかわらず、工場周辺の清掃活動や育樹活動「ながさき森林のつどい」や地元行事「くにみの日」への参加などを通じて地域活動への積極的な参加や地域交流を図っています。

■環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量・原単位



※エネルギー消費原単位：生産数量1トンあたりのエネルギー消費量 (GJ/トン)

水使用量



廃棄物総排出量・リサイクル率



大気汚染物質の管理状況 (2008年度)

項目	設備	規制値	実測最大
煤塵量 (g/Nm ³)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
SOx (Nm ³ /h)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—
NOx (ppm)	ボイラー	—	—
	発電機	—	—
	焼却炉	—	—

※対象設備はありません。

排水の水質管理状況 (2008年度)

項目	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	8.2	7.9
BOD (mg/L)	160	1.0	1.0
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	30	1未満	1未満
SS (mg/L)	200	8	5
T-N (mg/L)	120	1.7	1.3
T-P (mg/L)	16	0.45	0.19
大腸菌群 (個/cm ³)※	3,000	47	0

※日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

なし

(2007年6月に排水処理施設からの汚水流出事故が発生しましたが、手順書の見直しなど、管理体制を強化した結果、以後問題は発生していません。)

太平洋牧場サイト



所在地 福島県双葉郡富岡町大字小良ヶ浜松葉原47
人員数 30人
敷地面積 285,589m²
認証取得状況 ISO14001、生産情報公表豚肉JAS
おもな事業活動 肉豚の生産および販売、種豚の育種改良・技術開発
問い合わせ先 太平洋フリーディング(株)
 TEL：0240-22-6740
出荷頭数(2008年度) 23,657頭



サイト責任者
 太平洋フリーディング(株) 社長
小田切 正昭

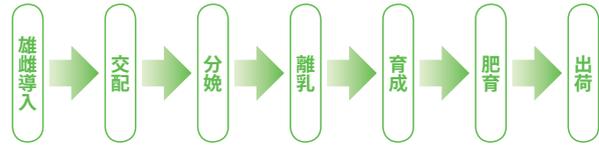
○ おもな生産商品と肉豚の生産フロー

おもな生産商品

- ・恵味の豚



恵味の豚



■ おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
省エネルギー対策実施	7,856kWh	27,980kWh	○
節水対策実施	360m ³	360m ³	○

省エネルギー対策については、豚舎での照明消灯により、効果をあげました。昼休み時間だけの消灯実施から業務中でも可能な限り消灯するよう心がけ、その記録を取るよう改善しました。この記録の開始は、従業員の意識づけの一助にもなっています。また節水対策については、排水処理施設の管理徹底により、水の希釈時間の短縮化を図りました。

■ おもな活動内容

● 省エネルギーへの取り組み

最大限の環境負荷削減を進めるため、牧場内に水道メーター3ヶ所・電気メーター7ヶ所を新規に設置し、排水処理施設や豚舎などの主要施設で使用量把握を行っています。使用量の分析をもとに、省エネ・節水対策のテーマを増やし、環境負荷を抑えた養豚事業を目指しています。生き物を相手とする事業形態のため、非常に難しい問題も多くありますが、『出来ることから』を合言葉に、従業員一同、全力で取り組んでいます。

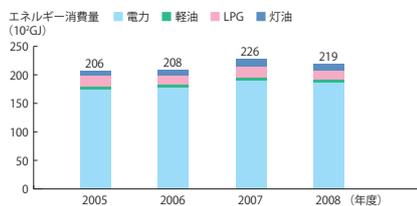
● 糞尿処理にかかわる悪臭対策

おもな廃棄物である豚の糞尿は、サイト内の堆肥処理施設にてすべて堆肥化しています。これまでは開放式コンポストでの処理を中心としていましたが、新規に密閉式コンポストを導入し、処理中の悪臭防止につながりました。また処理効率の向上、脱臭槽設置による臭気低減が図られ、安定した品質の堆肥が製造できるようになりました。堆肥は近隣住民・農家の方々に利用いただき、地域貢献のひとつとなっています。

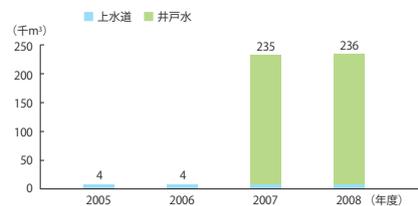


■ 環境パフォーマンスデータ

エネルギー消費量



水使用量



● 井戸水は2006年6月にメーターを設置したため、2007年度からのデータとなります。

廃棄物総排出量・リサイクル率



● 2006年度よりデータの取得を開始しました。
 ● 対象廃棄物：豚の糞、尿

排水の水質管理状況 (2008年度)

	規制値	最大値	最小値
pH	5.8~8.6	8.3	7.0
BOD (mg/L)	100	9.6	1.1
COD (mg/L)	—	—	—
N-HEX (mg/L)	—	—	—
SS (mg/L)	120	10	1
T-N (mg/L)	120	5.2	0.4
T-P (mg/L)	—	—	—
大腸菌群 (個/cm ³)※	2,500	240	0

※ 日間平均値

環境関連事故・法規制違反など

富岡町との協定により、排水の水質管理は、排水処理施設の脇に設置した放流槽での採水により管理しています。2008年8月に、この放流槽からの採水による定期自主検査にてSS値が協定値を超過しました。原因は放流槽に溜まっていた堆積物によるもので、ただちに富岡町へ報告するとともに、放流槽の清掃・手順書の見直しを行い、再発防止策を講じました。

品川本社サイト



大岡山事業所

所在地

品川本社 東京都品川区東品川4-12-2
 大井町事業所 東京都品川区東大井3-17-4
 大岡山事業所 東京都目黒区南3-13-4

人員数

420人

認証取得状況

ISO14001、ISO22000 (品質保証本部、生産本部、物流部)、ISO27001 (プリマシステム開発)

おもな事業活動

・本社機能 (営業・販売、生産統括、商品企画など)
 ・その他事務部門

問い合わせ先

プリマハム(株)
 TEL : 03-6386-1800 (代表)



サイト責任者 プリマハム(株) 取締役 加工食品事業本部長

石川 正則

おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
電力使用量の削減	730千kWh	730千kWh	○
OA用紙使用量の削減	4,203千枚	4,242千枚	△

電力使用量の削減については、オフィス内蛍光灯の間引き、パソコンの省エネモード設定等の取り組みにより、年度目標を達成することができました。OA用紙使用量削減については、情報管理の精度向上の観点から、昨年まで推進してきた「裏紙の使用」を廃止し、リサイクル化へ切り替えた影響もあり、目標には若干届きませんでした。

おもな活動内容

● 環境保全型商品の企画開発

世の中の環境への関心が高まるなか、「少しでもエコ活動に参加したい」という消費者意識を反映し、「手軽」で「お徳」なエコ商品を開発しました。「お徳用ロースハム」「お徳用ベーコン」は、従来の商品よりも100gあたりの包装材料を約14%削減、同じく「お徳用あらびきウインナー」では約64%を削減しました。また、環境配慮型商品でありながら、価格そのままに内容量を10g増量するなど、環境にも家計にもやさしい商品を実現しました。そのほかにも、環境に配慮した包装材料を使用した製品に「プリマのエコ」マークをつけるなど、環境配慮のニーズに応えるよう努めています。



● ハイブリッド車の購入 (販売車)

販売車両の更新時には、環境配慮型の車両への切り替えを行い、2008年度は、ハイブリッド車を3台、低排出ガス車および燃費基準達成車両を19台導入しました。また、各事業所では、エコドライブ普及連絡会の進める「エコドライブ10のススメ」を中心とした、エコドライブ研修を年1回実施しています。



● 地域貢献活動

地域環境活動への参画として、数年前より周辺道路や街路樹周りの清掃活動を実施しています。吸殻、空き缶、ビニール、時期によっては大量の落ち葉など、毎回多くのゴミが落ちていることを残念に思う一方、清掃中に声をかけてくださる近所の方や、会釈をして通ってくださる方に出会うと、活動の励みになります。また、活動には全従業員(管理職、派遣社員を含む)で参加しているため、環境に対する意識が会社全体で変わってきました。

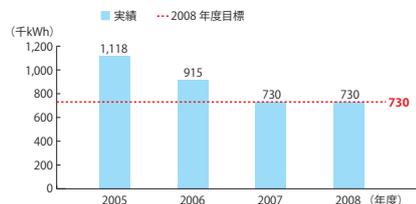


● 会計伝票のシステム変更によりOA用紙使用量を削減

情報システム部と連携した会計伝票の印字レイアウトの変更により、会計伝票1枚あたりに印刷される明細量の増加を実現。これにより、これまで2枚以上にわたって印刷されていた会計伝票を1枚に収めることができました。会計伝票システムは全社統一のシステムでもあり、全社のOA用紙使用量削減に大きく貢献しています。

環境パフォーマンスデータ

電力使用量



OA用紙使用量



環境関連事故・法規制違反など

なし

近畿サイト



所在地 大阪府大阪市西淀川区竹島2-2-39
 人員数 140人
 敷地面積 3,035m²
 認証取得状況 ISO14001
 おもな事業活動 営業、生肉の仕入れ・販売、生肉加工、
 配送管理・仕分け
 問い合わせ先 プリマハム(株) 西日本支社 総務課
 TEL：06-6477-8618



サイト責任者 プリマハム(株) 西日本支社長

太田 恵三

おもな目標達成状況

■ 全社集計目標

実施項目	2008年度目標	実績	評価
電力使用量の削減	2,357千kWh	2,270千kWh	○
OA用紙使用量の削減	1,543千枚	1,496千枚	○

昼休みの消灯の徹底、エアコン使用時の温度設定の管理等の取り組みにより、2008年度電力使用量の削減目標を達成。また、OA用紙使用量の削減についても、裏紙使用の徹底により、2008年度の目標を達成しました。全従業員の環境への意識、目標達成への意識が年々高くなってきており、さまざまな活動も浸透してきています。今後も現在の意識を維持し、目標達成に向けて取り組んでいきます。

おもな活動内容

● 歩留まりの向上

食肉事業本部・加工課では、原料肉のスライス加工などを行っています。原料肉をスライスした際、厚みのブレが大きいと製品としては使えず廃棄物になります。無駄のない生産を行うため、適正な肉厚、スライサーの刃の研磨を日々チェック・管理を行い、歩留まりの向上に努めています。また発生した端材については、有効活用できるものは再利用を行い、廃棄の軽減を図っています。2008年度は、生産量に対する廃棄率2.9%以下の目標に対し、実績2.14%で目標を達成しました。2009年度も2.14%以下を目標に掲げ取り組んでいます。

● 大阪通関商品の増加

私たちは、大阪で生肉の販売業務に携わっています。生肉食品を販売するにあたり、その供給元を消費地の近郊にすることは、商品の鮮度や輸送に伴う排気ガスの抑制の面からも、非常に有効です。そこで、輸入食肉の荷揚げ地(通関場所)をできるだけ大阪に集約することに努めています。これにより、東京・大阪間の陸送による物流数量を減らすことができ、トラックの燃料使用量、CO₂排出量の削減に貢献できるとともに、運搬費の削減という大きな効果を生んでいます。

● 管理ロス※の削減

営業本部では、関西地域への商品の営業活動を行っています。管理ロスの削減は、廃棄物の排出量削減、業績改善の両方の観点からも大きな課題です。管理ロスによる廃棄物の削減を行うためには、店舗からの返品を削減する必要があり、事前受注精度の向上、得意先への商品買取交渉、会議での進捗確認などを実施しています。2008年度は、管理ロス率前年比95%を目標に取り組みしましたが、社内ルールの変更に伴い目標を達成できませんでした。2009年度も引き続き、目標達成に向けて取り組んでいきます。

※店舗へ納品後、販売されずに戻ってきた商品(製品廃棄物)

● 地域貢献活動(クリーンおおさかへの参画)

市民・事業者・行政の協働によるまちの美化を推進するために大阪市が主催している「大阪市一斉清掃“クリーンおおさか”」へ、地域環境活動の一環として毎年参加しています。2008年度は11月に、近隣の竹島南公園全域と周辺歩道の清掃活動を行い、31袋のゴミを収集しました。2009年度も参加を予定しており、今年も清潔で美しいまちづくりに貢献していきたいと考えています。



環境パフォーマンスデータ

電力使用量



OA用紙使用量

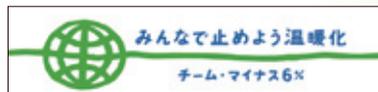


環境関連事故・法規制違反など

なし

プリマハム株式会社

東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー 〒140-8529
電話 03-6386-1800
<http://www.primaham.co.jp/>



プリマハムはチーム・マイナス6%に参加しています